

新春の集いは 壮大な抱負を語る場に



2008年日民協新春の集いが、1月18日午後1時から日比谷・松本楼で開かれました。参加者は18人でした。

最初に中田理事長からの挨拶。

「どこかの成人式で市が、アルコール検知器を設置して、入場者全員のチェックをしたという。事情はあるが、成人式にもっともふさわしくないもので残念だ。中教審も教育の国家統制の方向を強めている。面白くない年明けだが、日民協はおおらかに憲法・教育・司法の分野で、やるべきことをやっっていこう」

北野教授の音頭で乾杯を交わしたあと、海部事務局長から、昨年度の諸行動へのご支援に対するお礼と、相磯まつ江記念「法と民主主義」賞選考委員推薦、3月8日（土）プラザエフで開催される司法制度研究集会、5月4～6日開催の「9条世界会議」などについて、報告と提案が行われ、全員の拍手で確認しました。

引き続き出席者から年頭に当たっての感想や抱負、日民協に対する注文など、ざっくばらんな発言が続きました。順不同でその一部を紹介しましょう。

- ・「たくさんの方の年賀状をいただいたが、去年と今年では中身が違う。NHK特別番組ではないが、今年は『その時歴史が動いた』と特記されるような年になるかもしれない。そういう年にしようじゃないか」
- ・「講師活動で全国を飛び回っている。消費税や住民税、医療・介護保険などで、滞納者に対する行政の仕打ちがひどい。倒産や自殺者があとを絶たない。税制の抜本改革は急務だ」
- ・「『9条世界会議』がやっと盛り上がってきた。弁護士はオープニングで『第九』をやりたい。びっくりするような人たちが出演するのでご期待とご参加を」
- ・「『9条世界会議』を資金面で心配している。寄付を

何千万円も集めた先輩もここにおられるので、その秘伝をおしえてほしい」

- ・「小選挙区制は民意を代表していないし、弊害が多い。選挙制度改革の一大国民運動を展開しようではないか」
 - ・「裁判官であったときは、自分で民主的で人権尊重派だと思っていたが、弁護士になって真実の重さ深さを知り、軽い生き方だったとつくづく思う。法曹・法律家はもっと地域で活動し、市民と喜・楽を共にすべし」
 - ・「裁判員制度が8月から始まるが、部内の準備態勢は整っていない。職場には不満と不安が一杯だ」
 - ・「ジャーナリストだが、裁判員制度に強い危機感を持っている。日民協の活動に学ぶことは多い。後輩が入ってこないのが寂しい」
 - ・「いまの裁判員制度ではかえって冤罪が増えるのではと心配だ。軌道修正が必要」
 - ・「日民協の司研集会は本音のぶつかり合いがあって面白い。今年は全司法労組も司法制度研究集会をやる」
 - ・「日弁連の選挙をみると大都市からの選出に偏っている組織には右から左までまとめられる人が必要だ」
 - ・「悲惨な戦争体験者だ。もう戦争はあってはならない。憲法九条を世界に輝かせなければならない」
 - ・「日民協は非常に大事な組織だ。みんなで力を出し合い、大いに盛り立てて行こう」
- ……などなど。

普段の執行部会や理事会、研究集会などと違い、フランス料理(?)をいただきながらの新年の歓談は、和やかな雰囲気の中にも、この一年にかける強い思いがにじみ出て、感動的で示唆に富むものでした。

午後3時、みんなで記念写真に納まり、「またこういう会をやるうね」という言葉を交わしながら、新年の集いは成功裡に終了しました。

(文責・副理事長 有村一巳)